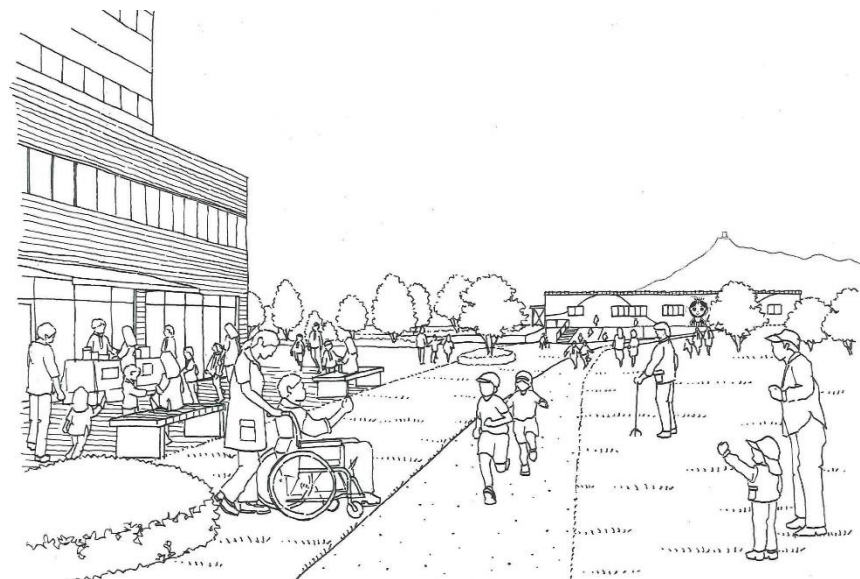
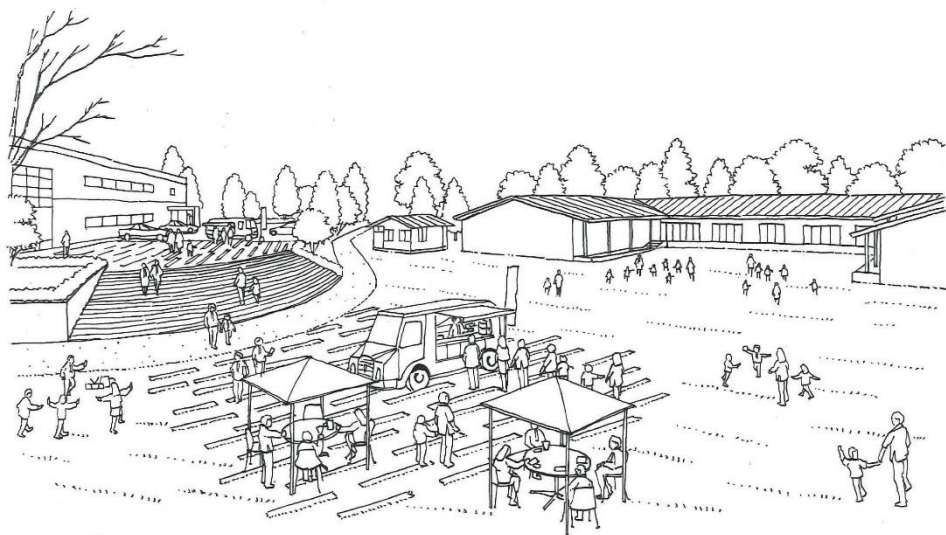
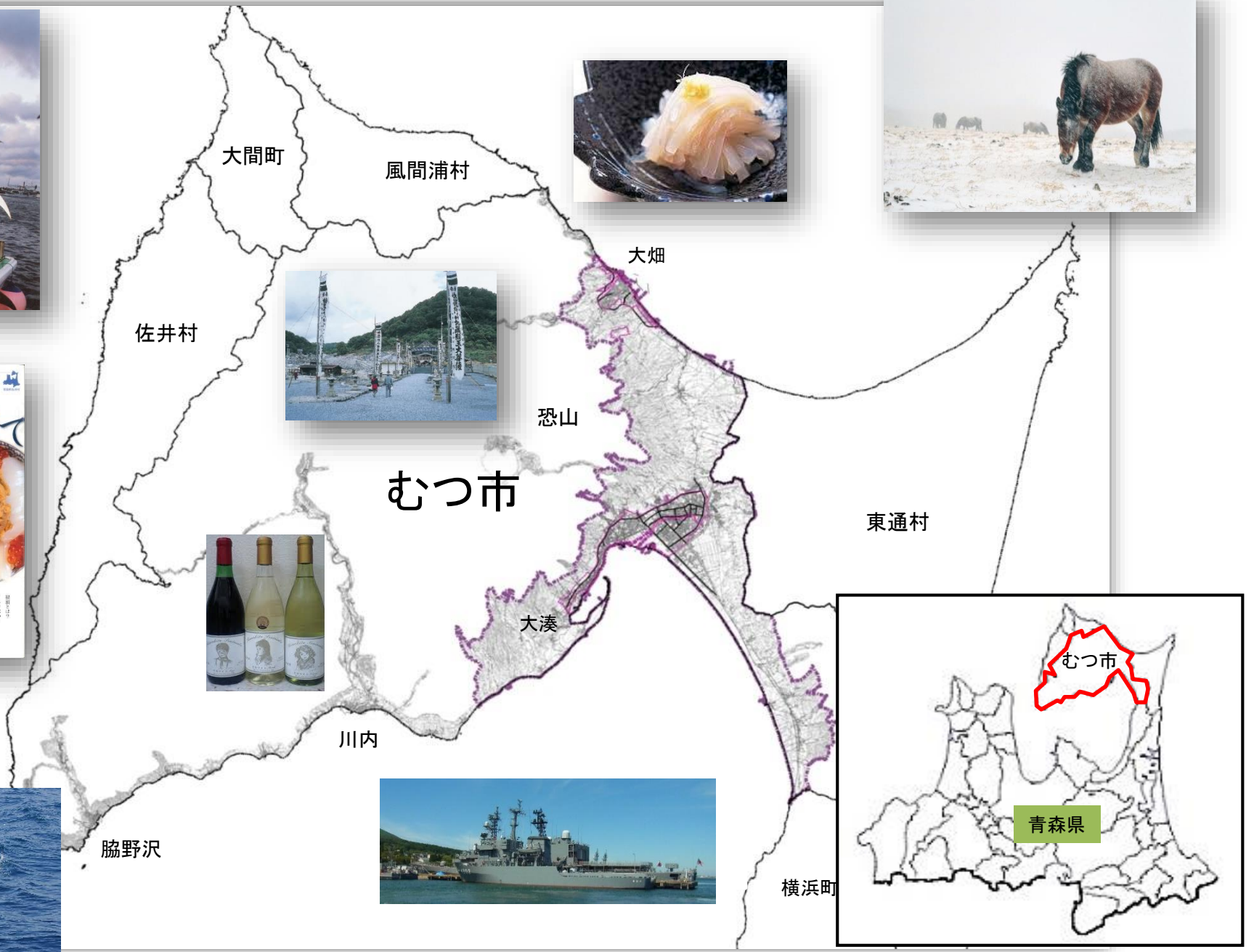
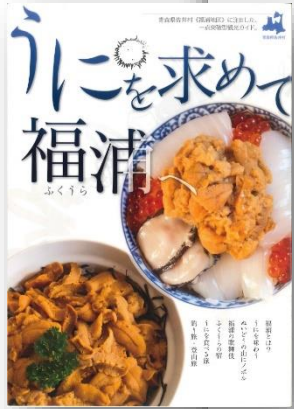
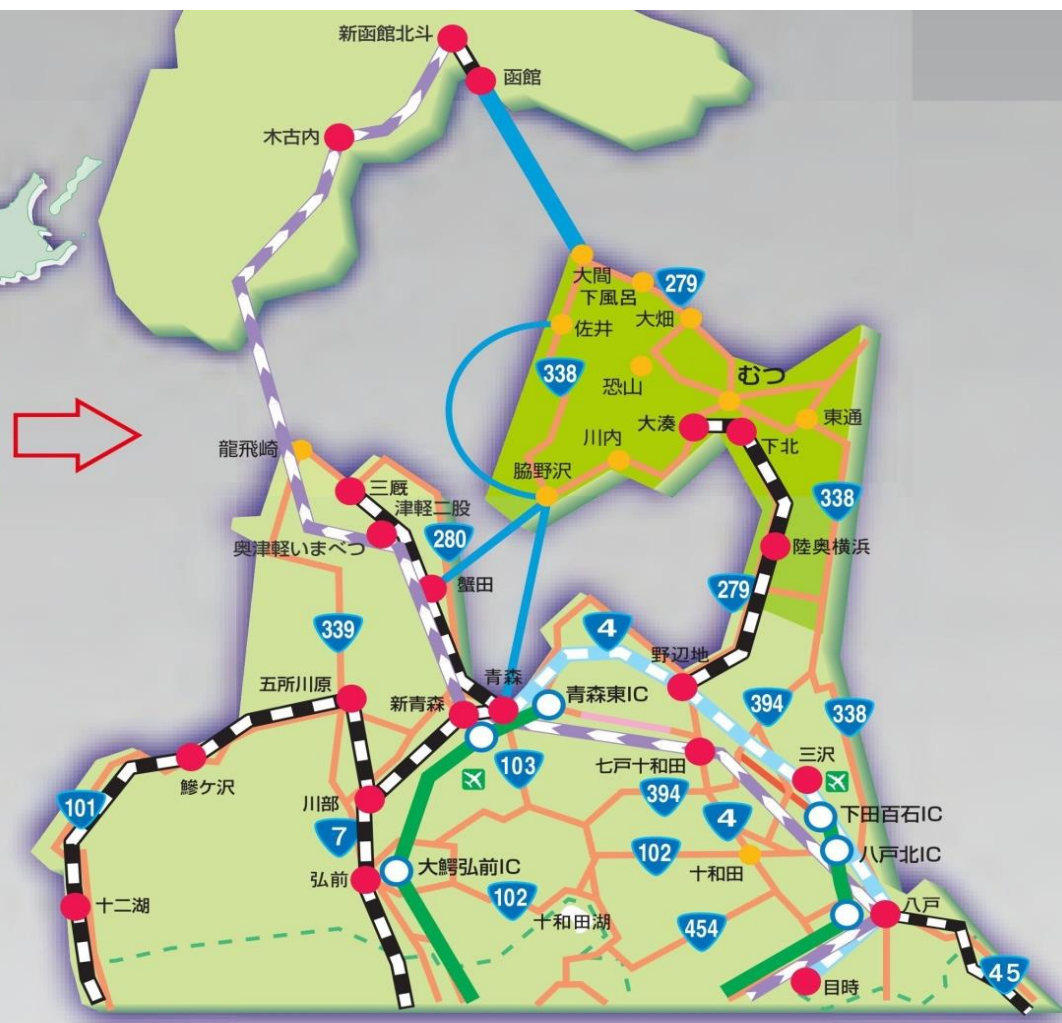


《新しいまちづくりのモデル都市》 金谷公園官民連携型賑わい拠点創出事業



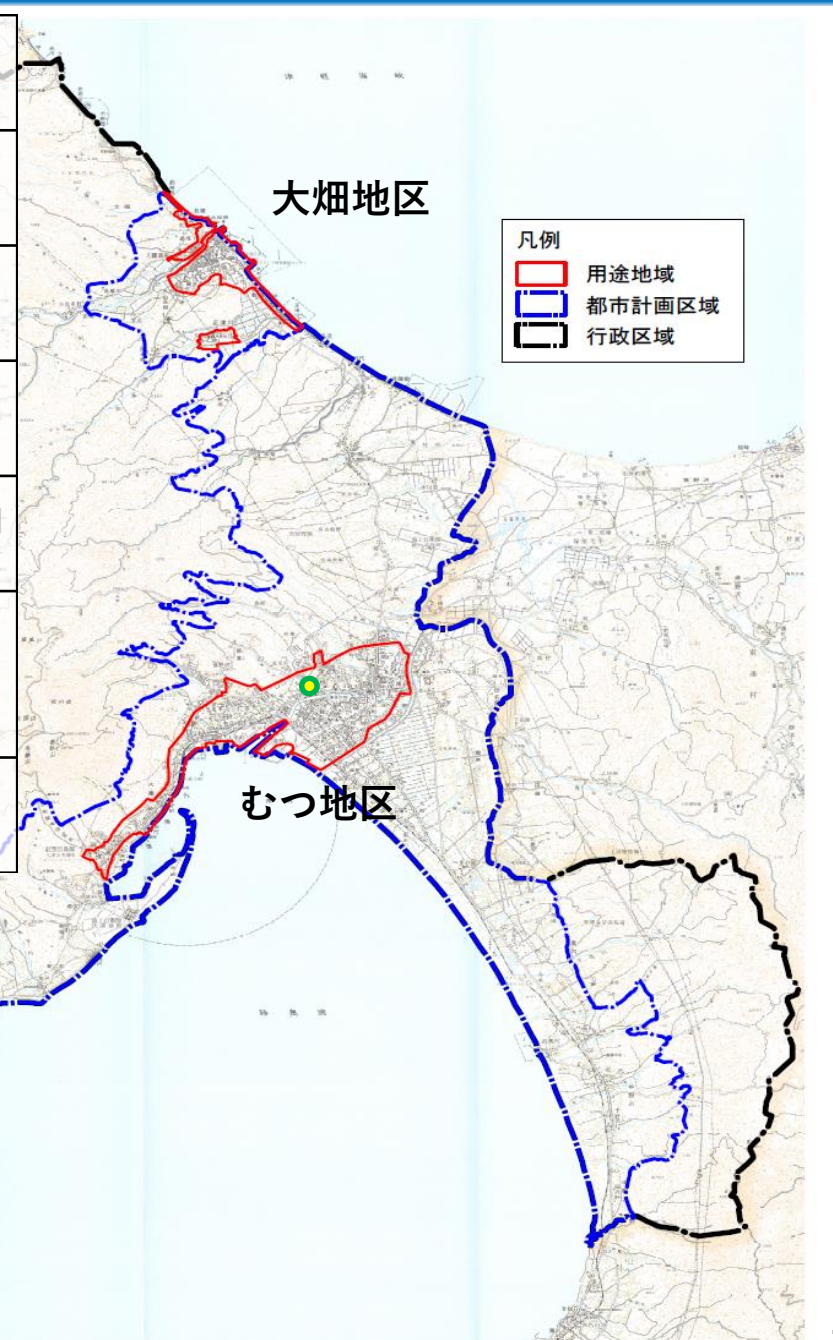


交通の要所 又は主要都市	距離及び所要時間
新幹線 七戸十和田駅	76.2 km 下北半島縦貫道路経由 自動車 1時間27分
高速道路 上北自動車道 (上北IC)	86.3 km 下北半島縦貫道路経由 自動車 1時間38分
函館市	93.1 km フェリー 3時間
青森市	98.3 km 自動車 2時間
八戸市	104 km 自動車 2時間10分

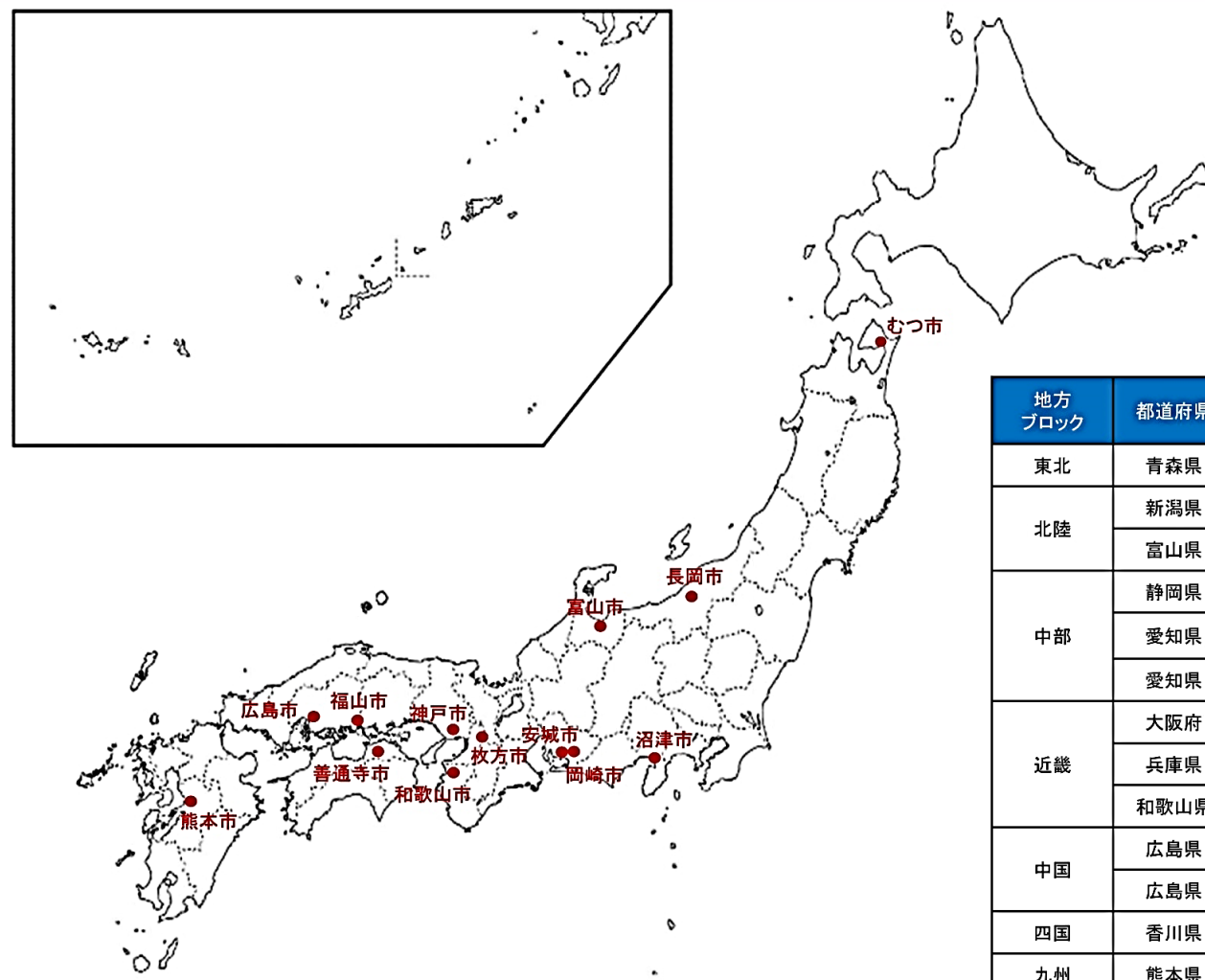


- 国道・県道
- 第二みちのく有料道路
- 北海道・東北新幹線
- 高速道路
- みちのく有料道路
- JR在来線
- フェリー・高速艇航路
- 青い森鉄道

人口	58,493人（平成27年国勢調査）
行政区域	864.16平方キロメートル
都市計画区域	158.21平方キロメートル （行政区域比18.3%）
都市計画区域内人口	52,892人 （人口比90.4%）
用途地域内（1,616ha）人口	35,808人 （人口比61.2%）
下北半島人口（おつ市、大間町、東通村、風間浦村、佐井村、横浜町）	78,986人
おつ市予算規模（歳入）令和3年度	387億円



令和3年3月31日選定



地方ブロック	都道府県	市町村	人口 (R3.1時点)
東北	青森県	むつ市	55,931
北陸	新潟県	長岡市	266,344
	富山県	富山市	414,102
中部	静岡県	沼津市	193,375
	愛知県	岡崎市	386,252
	愛知県	安城市	190,143
近畿	大阪府	枚方市	399,690
	兵庫県	神戸市	1,525,812
	和歌山県	和歌山市	353,667
中国	広島県	広島市	1,194,817
	広島県	福山市	466,863
四国	香川県	普通寺市	31,495
九州	熊本県	熊本市	732,643

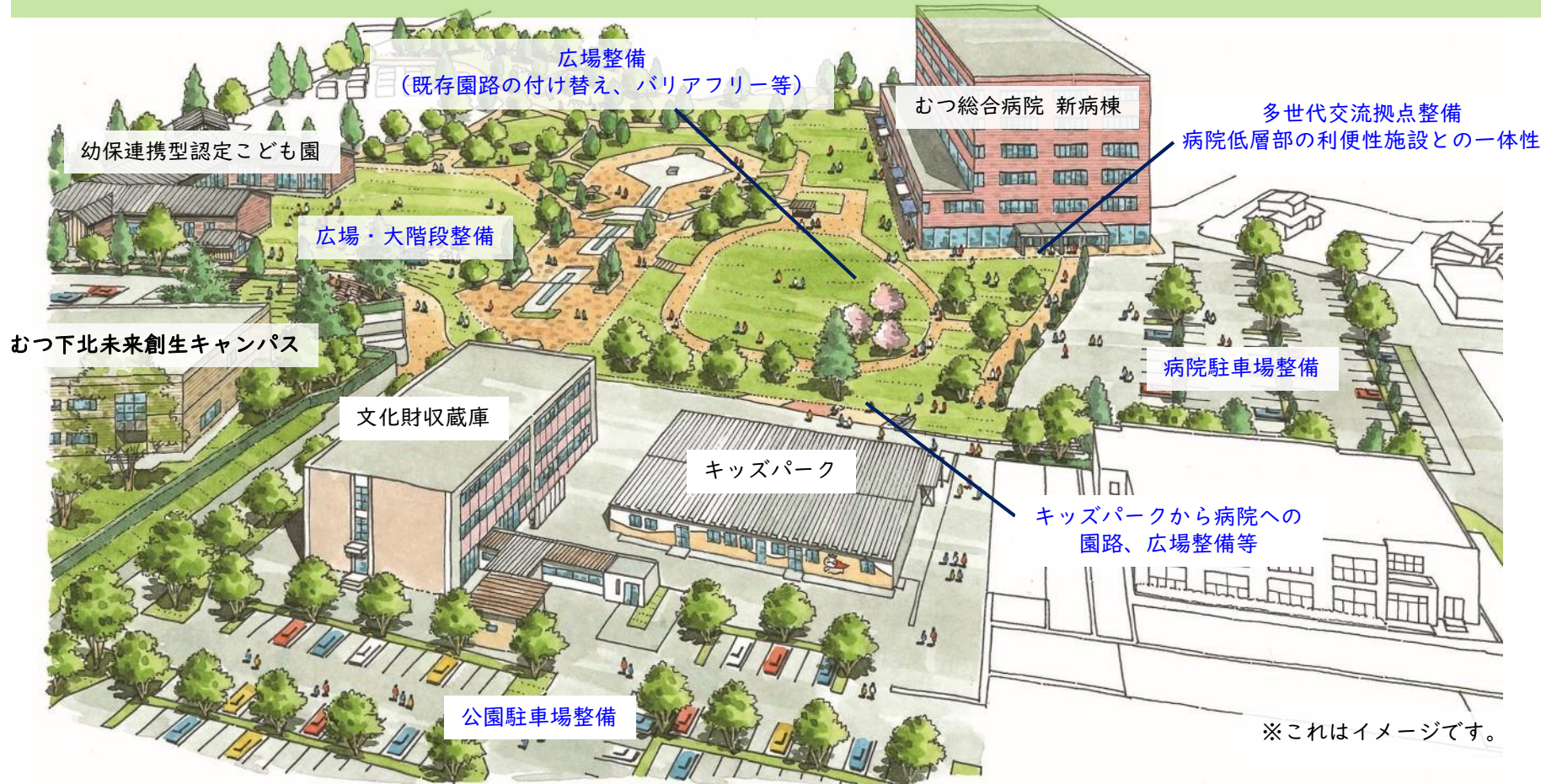
- コロナ禍を踏まえた「新たな日常」に対応しつつ、都市構造の再構築と地域の稼ぐ力の向上を実現するモデルとなる都市として、むつ市を含む全国**13都市**を選定
- 国土交通省と内閣府において、各種支援メニューにより**集中的・重点的に支援**し、歩いて暮らせるゆとりとにぎわいあるまちづくりを推進



金谷公園周辺には、むつ総合病院、下北文化会館、キッズパーク、第二田名部小学校の公共施設が立地しています。

今後、むつ総合病院での新病棟建設、下北文化会館での下北地域初の4年制大学のキャンパス設置、金谷公園では公園占有による認定こども園・病児保育施設・コミュニティ施設の設置が予定されており、公園と周辺施設が一体となった新たな交流・にぎわい空間が創出されます。

新しい交流・コミュニケーション・にぎわいの拠点へ



オープンスペースである都市公園が周辺施設を互いに結ぶことで、子ども、大学生、地域住民や病院利用者などの多様な人々によるコミュニケーションやにぎわいが生まれ、**新しい希望と未来が紡ぎ出される場**としていきたいと考えています。

交流・子育て・くつろぎを紡ぐ官民連携による取組



- 民間事業者により、公園内に認定こども園やコミュニティ施設が設置され、地域とのつながりや交流を大事にした子育て事業が展開されます。
- オープンスペースを活用した日常的な賑わいイベント「KAMAFUSE MARKET」により、にぎわいやくつろぎの空間を創出しています。

健康とにぎわいを紡ぐ公園と病院の一体化

- 新病棟の低層部は、公園利用者や地域の方々も利用できるスペースを設置し、公園・地域・病院の人が行き交う多様なコミュニケーションを創出していきます。
- 新病棟の低層部及び外構部は、健康をキーワードとした多世代交流の拠点として整備する計画としています。
- これまで金谷地区で行われていた健康づくりの活動（子どもマラソン大会等）が、新病棟からも見渡せる新たな景色として創出されます。
- バリアフリーに対応した園路整備など、病院利用者も公園を利用しやすい公園環境を整備し、子どもから高齢者までの多世代が利用しやすい空間を創出します。



キャンパス・認定こども園・公園の融合



- 金谷公園とむつ下北未来創生キャンパスを大階段でつなぎ、一体的な空間を創出します。
- 公園やキャンパスのオープンスペースを活用したイベント等を推進します。
- 大学生、園児、地域住民による新しいコミュニケーションの拡大が図られます。
- 認定こども園・むつ総合病院・むつ下北未来創生キャンパス（下北文化会館）で統一感や調和のある景観形成を図ります。



「新たな日常」に対応した
“オープンスペースとコミュニケーションが
紡ぐ多様なまちづくり”を推進するため、
民間事業者の皆様のアイデアやノウハウを活かした
ご提案をお待ちしています。

